

日本女大家政。山田喜美江 樋口ゆき子

東京大教養 磯田 浩

目的 理論的な袖山曲線を作成するために、袖および袖つけ平面を簡単な幾何学形状で近似して展開することにより、袖つけの角度変化に対する袖山曲線の変化を比較研究してきた。今回はひきつづき角度変化、特に肩先角度の変化に伴う袖山曲線の変化、および、いせこみ量とその位置について検討する。さらに、腕つけ根形状を実測して理論値と比較検討し、体型別製作への応用を目的として考察を行なった。

方法 袖を上部に回転面をもつ楕円柱、袖つけ面を平面と考え、袖つけ平面の傾きなど5要因を角度で表わして、袖と袖つけ平面との交線を図学的に定め展開した。今回は昨年の結果をもとに、袖山曲線に及ぼす影響の大きい据りと肩先角度を主な変数にとって整理し、また、肩先角度の変化による袖山曲線の変化、いせこみ、および袖つけ平面の形についても新しく考察する。なお、3名の被験者により、各変数を定めた実測を行ない展開図を求め比較した。

結果 肩先角度の変化に伴い、袖山の高さは、いかり肩よりなで肩の方が高く、いせこみ量やいせこみの幅はいかり肩の方が多いうことが理論的展開図から求められる。袖つけ平面の形は前方にやや突出した形となり、上挙に伴い扁平となることがわかった。これらを腕つけ根の形状と比較することができ、理論値が実物値と差の少ないことを確かめた。